

3 特別支援学校編

1. 備える（事前の取組）

(1) 防災教育の充実

特別支援学校に在籍する発達障害の児童生徒にとっても防災教育が重要になります。防災教育のねらいは、災害時における危険を認識し、状況に応じて自分自身の安全を確保するための行動ができるようにすることです。

主な内容は「災害に対する理解」「災害対応能力（避難行動）の育成」です。発達障害のある児童生徒に対しては、その障害特性により、災害時に苦戦をすることが予想されますので、その特性に応じた防災教育が必要であり、合わせて保護者、地域との連携や協力体制が重要になります。

災害時の発達障害児の苦戦

- ・危険，状況が理解しにくい
- ・急な予定変更が苦手
- ・状況に応じた行動が取りにくい
- ・集団行動を取りにくい



① 「災害に対する理解」

災害理解…地震、火事、津波等の自然災害の理解を促します。

- ・災害が起きたらどうするのか。
- ・帰宅できない時には、学校で待機する。
- ・スクールバスが、運行できないこともある。

* DVD等の視覚教材を活用しましょう。

文部科学省：防災教育参考DVD

HP：防災教育チャレンジプラン等

視覚的教材は有効です。
経験をしたことがないことは受け入れにくいので
経験が必要です。



災害体験…起震車による地震体験、煙体験等により体感をさせます。

* 消防署の協力により実施可能です。

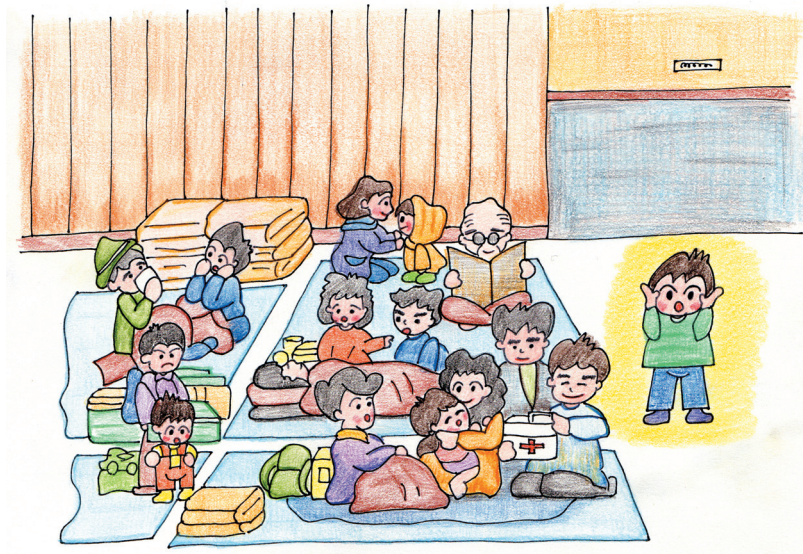
避難所体験…避難所での生活を実際に体験させることで、避難所の生活をイメージさせます。

- ・体育館等を避難所に設定して体験をさせる。
- ・備蓄食料の試食をする。
- ・避難所での生活のルールを教える。
- ・ポータブルトイレの経験をする。Etc

* 保護者や地域の方と協力し実施をすることで効果が更に期待できます。

避難所には緊張感が漂い、ざわざわした雰囲気が想定できます。災害で不安な状況の時に新たな状態に適応することは難しいので、避難所のイメージ作りが重要です。





② 「災害対応能力（避難行動）の育成」

避難訓練…安全な避難行動を身に付けさせます。

- 実際の災害時にできるだけ近い状況で訓練を実施します。
- 授業中、休み時間、登下校中等の様々な状況を設定して実施します。
- 地震が頭を守る等の初期行動が取れるようにします。
- 避難が夜間に及ぶことも想定して、宿泊訓練を実施することも大切です。
- 見通しをもたせます。

絵カードや、文字を使って理解を促す。

例)



地面が揺れます

けがをしないように
します。

*実施後は必ず評価を行い、必要な訓練内容、改善点を明確にしていきます。

避難訓練をします

- 1 地震がおきた
- 2 机の下にもぐる
- 3 グランドへ避難する
- 4 体育館へ行く
- 5 迎えに来るまで待つ
-
- 等

見通しをもたせ、現状の
理解を促すことで不安の
軽減を図ります。



災害で不安な状況の時に新たな状況に適応
することは難しいです。訓練を重ねることによ
り避難行動が安全にできるようになります。



③ 保護者との連携

引き渡し訓練…災害時に対応ができるように訓練を実施します。

保護者が迎えに来るまで待つことができるようにします。

災害時要援護者支援制度の理解

- 名簿登録を確認します。災害時に支援が必要な児童生徒が居ることを行政に知ってもらうことは大切です。

居住地での理解者を増やすことが災害時の助け合いにつながります。

地域での避難訓練

- 特別支援学校に通学する児童生徒は、学校が居住地から遠距離の場合が多いので、居住地での避難訓練への参加を推奨します。
- 地域の福祉避難所を確認します。



④ 地域との連携

近隣の施設、自治会と連携をすることで、災害時に迅速な対応と相互支援を可能にすることができます。

地域の特性を生かした取り組みをすることが大切です。

地域防災対策連絡会の設置

— 友部特別支援学校の防災隣組の取組 —

友部特別支援学校の近隣は、県立中央病院、県立中央看護専門学校、県障害リハビリセンター、茨城福祉工場、友部東特別支援学校があります。そこで、その立地条件を生かし、地域防災対策連絡会を立ち上げました。防災連携を図り、合同避難訓練等大規模災害への備えと災害発生時の迅速な対応を目的として年3回実施しています。

更に、自治会との自治会防災マニュアルに基づいた連携（隣組）の取り組みを検討しています。

(2) 備 蓄

学校用として 食糧、水、医療品、毛布、ポータブルトイレ等
* 生徒の数+近所の人が避難してくることを想定する。

個人用として 必要品の入ったリュック（季節ごとに入れ替える）

帰宅できないことを想定し通常自宅で服薬している薬を通学かばんに入れておくと安心です。



2. 命を守る（発生時の取組）

(1) 命を守る

安全に避難をさせて命を守る。
現在の状況の理解と見通しをもたせる。

(2) 引き渡し

保護者へ児童生徒を引き渡す。
* 家庭の被害状況、本人の状況によっては、家族と学校に残留することも検討する。

繰り返して避難訓練を実施していると、落ち着いて災害に対応ができます。



3. 立て直す（事後の取組）

(1) 安否確認

・安全に避難ができているか確認をします。

(2) 避難所協力

- ・勤務校が **福祉避難所に指定されている**
➡ 避難所のスタッフとして安心、安全な生活の維持
- ・勤務校が **福祉避難所に指定されていない**
➡ 児童生徒のいる避難所等への巡回をし、避難所のスタッフや周囲の避難者への障害特性、支援方法理解、協力要請

日頃の実践を活用し、その特性に対応した支援ができるようにします。



(3) 心のケア

家庭訪問、避難所等への訪問→児童生徒の状況を把握し、心のケア等の支援をする。

(4) 学校再開

学校の再開を検討
再開が難しい場合は、日中過ごす場所としての提供を検討する。

避難生活が長引くことで、ストレスを感じます。日常を取り戻すことができるように努めます。



4 障害者施設編

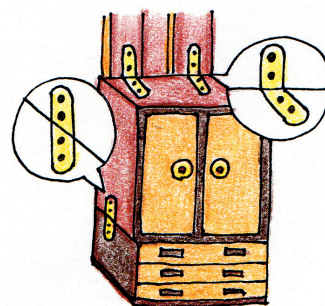
東日本大震災では、茨城県内の多くの施設で、電気、水道が停止し、施設の一部が壊れたり、利用者の送迎ができなくなったりし、また、強い混乱をおこした利用者の方もいました。利用者の安心・安全を守るために施設における防災の準備は必要不可欠なものになっています。しっかりと準備をしてどのような時にでも対応できるようにしておきましょう。また、災害は地震だけではなく、台風、火災、竜巻など様々です。事前に準備をしておくことで、いざという時に発達障害の人たちへの支援がスムーズになります。

1. 防災の準備はできていますか？


■事前に把握しておくこと（チェックしてみましょう）

<input type="checkbox"/> 施設内の避難経路の把握	職員も利用者も安全に避難できるように周知しておきましょう。発達障害の人は急な予定の変更に弱い方もいますので、日頃の避難訓練の実施をしっかりと取り組みましょう。
<input type="checkbox"/> 近隣の避難所の把握	施設が倒壊する可能性もあります。どこに避難所があるのか調べておきましょう。
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認	近くに危険となっている場所はないか調べておきましょう。発達障害の人は危険を予測するのが苦手です。避難中のことも考えてしっかりと把握しておきましょう。
<input type="checkbox"/> ご家族との連携（主に通所施設）	交通や通信手段が取れなくなってしまう可能性もあります。『災害用伝言ダイヤル（171）』や携帯電話の『災害用伝言板』の活用など、事業所とご家族とでの連絡方法を事前に決めておきましょう。
<input type="checkbox"/> 防災マニュアルの作成	災害が起こった際に職員、利用者がどのように行動すればいいのかわかるようにマニュアルを作成しておきましょう。職員参集体制等も確認しておきましょう。

施設で生活している利用者、また通ってくる利用者の安全を守るうえでも建物の安全対策はしっかりと取り組んでおく必要があります。棚やロッカーの転倒や、落下などの2次被害が起こらないようにしっかりと対策をとっておきましょう。日頃の防災訓練の際も、消火器や消火栓の場所などは把握しておくようにしましょう。



■事前に用意しておくもの（チェックしてみましょう）

<input type="checkbox"/> 防災グッズ	テント、携帯ラジオ、簡易トイレ、 懐中電灯、ろうソク、携帯コンロ、等	
<input type="checkbox"/> 救急箱	応急的な処置ができるように用意して おきましょう。絆創膏、包帯、湿布、 傷薬、消毒薬等。	
<input type="checkbox"/> 衣類	建物が倒壊したときのことや、衛生面でのことも考えて下着、 生理用品等の予備も用意しておきましょう。	
<input type="checkbox"/> 飲料水	1人1日3リットルを目安に3日分の 飲料水の確保をしておきましょう。	
<input type="checkbox"/> 食糧	利用者、及び職員それぞれ3日分は確保しておきましょう。 調理することが困難と予想されますので、調理不要な物も用 意しておくのが望ましいです。	
<input type="checkbox"/> 医薬品（入所者用）	入所されている方は毎日服薬されている方がいます。いざと いうときの為に3日分の予備薬を備蓄しておきましょう。	

防災マニュアルの作成と協力関係

災害はいつ起こるか予測できません。夜間帯に起こる可能性もあります。発達障害の人が安心して避難できるように少ない職員でも安全に誘導できるように避難のマニュアルを作成しておきましょう。

発達障害の人は生活の流れが崩れると不安が強くなることがあります。災害の後、ライフラインが確保できない中でも、できるだけ同じ生活スタイル（生活の流れ）が送れるように、準備を整えておきましょう。

発達障害の人にとっては施設を利用できることが、安心につながります。災害が起こっても事業が少しでも早く回復できるように事業継続計画（BCP）も作成しておくことが望ましいです。

また、平成25年1月に茨城県と一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会が防災時の協定を結びましたが、その他の施設間でも、お互いに協力・連携できる関係作りをしておきましょう。

2. 災害発生時に気をつけること

	気をつけること・配慮すること
出口、避難経路の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安全な場所へ避難できるように出口や避難経路の安全性を確保しておきましょう。(ドアを開ける等)
利用者の避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全を最優先に安全な場所に避難させましょう。 <p>※チェックポイント</p> <p>自閉症を中心とした発達障害の人は突然のこと(災害)で混乱やパニックを起こしているかもしれません。私たち支援する側も不安になっていると思いますが、できるだけ利用者の方が安心して避難できるように配慮しましょう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難ルートをリビング等に貼りだしておく。(避難場所を提示しておく) ・避難場所を分かりやすいようにしておく。(看板を立てる等) ・支援員側が落ち着いて対応する。(なるべく大きい声を出さない等) ・利用者の障害特性を知っておく。(日頃の避難訓練でどのような課題があるのか(こだわり等)を理解しておく)
利用者の安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、職員の点呼、怪我の確認をすみやかにしましょう。 <p>※チェックポイント</p> <p>自閉症を中心とした発達障害の人は突然のこと(災害)で混乱やパニックを起こしているかもしれません。安否確認の方法もスムーズにできるように準備しておきましょう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険かどうかの判断ができないので、建物内に残っていないか目で確認しましょう。(声をかけても反応が無い可能性もあります。)また、いったん避難場所に避難しても、再び建物内に戻ってしまう可能性があります。 ・怪我をしていても自分で訴えることが難しい人が多くいます、点呼を確認した後は体をチェックしましょう。

～避難訓練時に心がけること～

- ・発達障害の人は突然の出来事に弱く、必要以上に不安になったり、混乱したり、もしかしたらパニックになってしまうかもしれません。また、想像力の弱い方は、災害の怖さや避難の必要性が理解できず避難が遅れてしまうことも考えられます。
- ・発達障害の人を避難させるのには日頃の訓練がとても重要です。施設の中で発達障害の人がスムーズに避難できるように工夫や配慮をしておきましょう。

定期的避難訓練を行う。	いざという時にものを言うのは日頃の訓練なのは私たちも発達障害の人も同じです。定期的避難訓練を行うことで避難経路や避難場所などを覚えてもらいましょう。
避難場所を分かりやすい場所にする。また分かりやすいようにしておく。	避難する場所が生活の場から遠かったり、分かりづらい場所にあると避難が遅れてしまうかもしれません。施設の中で安全で分かりやすい場所を選んでおきましょう。また避難場所には看板などを立てておくのもいいでしょう。
避難の仕方、ルートを生活環境の場に貼っておく。示しておく。	避難の手順や避難経路、避難場所などを生活環境の場に貼りだしておきましょう。利用者の為だけでなく、私たち支援者もスムーズに誘導することができます。
利用者の障害特性を知っておく（アセスメントを取っておく）	避難をする際に（避難訓練の際に）、利用者が（発達障害の人が）どのような行動を示すのか、事前に知っておきましょう。避難時の個々のアセスメントを取っておくことで、危機回避も含めてより安全、スムーズに避難させることができます。

◆避難訓練

- ・「避難訓練」という言葉、行動に対して発達障害の人がポジティブに捉えられるように配慮しましょう。
⇒3.11の際も混乱している利用者「“避難訓練”と同じだから大丈夫ですよ。」と伝えることで落ち着いて避難できたという報告も多く聞かれます。